

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	東京都立東大和療育センター分園よつぎ療育園		
○保護者評価実施期間	保護者向けアンケートは利用者がいなかったため未実施		
○保護者評価有効回答数			
○従業者評価実施期間	令和6年9月19日	～	令和6年10月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 13
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多職種によるケース会議などでの意見交換などを通して、利用者一人ひとりの状態に合った個別的な療育を提供している。	個別支援計画を作成するにあたっては、まず、看護職、福祉職に加え、医師や理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種が参加してケース会議を開催し、各専門職がそれぞれの視点から利用者の状態を多角的に検討し、より適切な支援方針・内容を策定している。また、個々の利用者に応じたポジショニングや摂食マニュアルを作成し、日常の支援がより効果的かつ安全に実施できるよう努めている。このように、多職種の専門的な知見を踏まえた支援をおこなうことで、利用者一人ひとりの状態に合った個別的な療育を提供している。	令和7年2月に導入した療育システムの活用を通じて、多職種による情報共有の拡充により、さらなる日常の支援の充実を図っていく。
2	個別療育や集団療育に加え、時間延長療育や音楽療法など、利用者が楽しめる特別な機会も提供している。	普段の個別療育や集団療育に加え、時間延長療育やクリスマス会、音楽療法、移動水族館など、利用者が楽しめる特別な機会も提供している。お祝いの会では、くす玉割りや花束の贈呈、プレゼントの贈与をおこない、温かい雰囲気の中で大切な節目を迎えた利用者を皆で祝っている。音楽療法では、マラカスなどの楽器を用意している。活動中、利用者は足でパーチャイムを鳴らしたり、音が出る嬉しそうな表情を見せたり、オーガニジーを使って風を起こし、ギターや鈴の音や振動を全身で感じる時間を楽しんでいる。	利用者とのコミュニケーションのために、視線入力装置などのIT技術も活用していきたい。
3	職場環境の改善やICT化による業務の効率化に取り組み、職員にとって風通しがよく働きやすい職場づくりを進めている。	園長のリーダーシップのもと、職場環境の改善や業務の効率化、ワーク・ライフ・バランスの推進など職員にとって働きやすい環境づくりを進めている。職員間での情報の共有化、業務の効率化を図るため、ICT化の促進に取り組み、新たに療育ソフトの導入を実現している。職員の家庭の事情や働き方の制約など面談を通じて聴き取り、業務調整など必要な配慮をおこなっている。職員アンケートでも「休暇がとりやすい」といった意見が複数寄せられている。今年度は「心理的安全性」の研修を実施し、風通しがよく働きやすい職場づくりを進めている。	この取り組みを促進するために令和7年度事業計画において「職員間の良好な人間関係の構築や働きがいのある環境整備に取り組み、職員の定着や利用者支援の向上を図っていく」ことを掲げているところである。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	災害発生時の対応について、施設と保護者が共通認識を持つよう、さらなり取り組みを進めていく。	第三者評価の利用者調査の結果、「利用者や職員の安全確保のため、具体的な対策や避難訓練のシミュレーションについて、施設側と保護者側で情報を共有し確立したい」との意見が寄せられた。これは保護者が災害発生時のことに不安を感じている証である。	災害発生時の対応について、施設と保護者が共通認識を持つよう、園の災害対策について保護者との情報共有等のさらなる取り組みを行っていきたい。
2	ボランティアの活用などにより、利用者の生活の質(QOL)の向上につなげていく。	移動水族館や音楽療法など、外部団体や外部講師を導入し、利用者の楽しみの機会を提供している。こうした取り組みは、新たな刺激を与え、社会とのつながりを深める貴重な機会を提供している。一方、特に新型コロナ禍後、ボランティアの活用は進んでいない。	ボランティアの受け入れ窓口を通じて受け入れを図っていく。
3	職員の学びの機会を増やしていく。	他施設との交流や外部研修への参加を促し、職員の能力向上に努めているものの、小規模な組織であることから、自ずと職務拡大や職務充実の機会に限られる。	経験に応じた必要なスキルを獲得できるよう、法人内の人事交流などもさらに活用していく。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年3月28日				
東京都立東大和療育センター分園つぎ療育園						
チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	5	8	基準は満たしている。スペースは十分とは言えず、安全の確保のため医療機器の設置場所等に留意している。	スペースを有効活用するための内部改修などを検討していきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	11	2	職員定数の範囲内で適正に人員配置を行っている。	職員の年齢層に偏りがあり、計画的な人員配置を考慮する必要がある。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10	3	サービス事業間で動線が重なるため、安全の確保には留意している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	13	0	建物の老朽化は進んでいる。メンテナンスや清掃・消毒による衛生・環境整備に努めている。令和6年度は幼児室等の空調更新工事を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9	4	スペース的な課題はあるが、アコーディオンカーテンの活用など運用の工夫を行っている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	10	3	幹部から成る運営会議の議事録は全職員に回覧している。職員の意見を議題に反映している。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	11	2	第三者評価の保護者アンケートの結果は、定量的・定性的に分析し、事業計画策定時の参考としている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10	2	第三者評価の従業員アンケートや園長面談の機会を活用し、意見等の把握、業務改善に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	13	0	第三者評価の「さらなる改善が望まれる点」は事業計画策定時の参考としている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	12	1	研修委員会による園内研修に加え、外部研修の参加を促している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	12	1	令和7年3月13日に公表済み	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	12	1	多職種で生活面、健康・医療などの観点からアセスメントを行っている。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	12	1	「個別情報シート」を用いて、利用者一人ひとりの情報を把握し、さらに、家族の要望も踏まえて個別支援計画を作成している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	13	0	療育システムを通じて、情報の共有及びそれに基づく支援を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	11	2		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	11	2	支援プログラムに基づき、個々の状況に応じた計画を策定することとしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	11	2	担当者が立案したものをチームで意見を出し合い公式化している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	12	1	新たな活動プログラムと繰り返した方が良いプログラムを効果に応じて織り交ぜている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	12	1	利用者の状況に応じて、個別と集団を適宜組み合わせた活動を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	13	0	毎日、支援開始前に、医療情報の伝達、当日の受け持ちや活動などを確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	12	1	毎日、支援後のミーティングにおいて、利用者の状況や活動内容について振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	11	2	療育システムの活用により、個別支援計画や療育記録などを共有し、検証・改善を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	11	2	多職種で生活面、健康・医療などの観点からモニタリングを行っている。	

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		東京都立東大和療育センター分園よつぎ療育園				公表日	令和7年3月28日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	12	1	サービス責任者、担当者など利用者の状況をよく理解した者が参画している。		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	2	主治医、訪問看護事業所などの在宅サービス事業所などと情報交換を行い、連携して利用者の在宅生活を支援している。		
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	1	特別支援学校などと情報交換を行い、連携して利用者の在宅生活を支援している。		
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	11	0			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	4			必要に応じて連携を取るに留まっている。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	0	11			他の施設の利用者との交流活動は行っていない。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	12	1	家族の要望を聴取し、日々の活動に反映できるよう努めている。		
保護者への説明等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	4	自宅で役立つ内容などを情報提供している。家族からの質問や在宅生活での対応方法について多職種により、多角的な助言を行っている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	11	1	医療ソーシャルワーカーが変更点などを丁寧に説明している。		
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	11	2	個別支援計画の作成にあたっては、利用者の家族と面談を行い、希望や意向を丁寧に聞き取り、支援内容に反映できるよう努めている。		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	12	1	利用者一人ひとりの特性やニーズに基づき、具体的に家族にも理解しやすい療育目標を設定し、丁寧に説明を行い同意を得ている。		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	11	2	定期的な機会を設けている。		
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	12	1	保護者会や個別面談などの機会に多職種で関わり、家族との情報交換・情報共有に努めている。		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	12	1	家族が職員に気軽に要望を言えるよう努めている。相談内容に応じて生活支援員や医療ソーシャルワーカーが個別に対応している。		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	11	1	利用者・家族向けに定期的な広報誌を発行している。		
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	12	1	入職時のオリエンテーションはもちろんのこと、日々の活動の中でも個人情報の取扱いに注意している。		
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	12	1	視線やまばたき、四肢の動きから、利用者の快・不快を含めた気持ちの読み取りに努め、寄り添う姿勢で関わっている。		
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7	6	移動水族館活動には、地域の方にも参加していた。			
45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	11	1	感染対策委員会、研修委員会を通じてテーマごとの研修、訓練を行っている。例として、令和6年度は感染防護具の装着、嘔吐物の処理の訓練を行っている。	最新の標準的な内容なるように定期的な見直しを行うよう努めている。		
46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10	2	BCPの机上訓練、非常災害発生時の避難訓練等を行っている。例として令和6年度は放水訓練を行っている。			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 令和7年3月28日				
東京都立東大和療育センター分園よつぎ療育園						
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
非常時等の対応	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	11	1	「処方内容確認書・投薬依頼書」の様式を作成し、家族と事業所で双方向チェックの仕組みを導入している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	11	1	毎朝の全体ミーティングで栄養士と看護師が献立、食材のダブルチェックをしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	2	医療安全委員会を通じて安全管理に係る研修・訓練を行っている。例として、令和6年度は緊急蘇生・AEDの訓練を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	2	連絡ノート等を通しての情報交換を行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	12	1	インシデント報告作成の徹底、園内LANを通じた各部署での内容確認を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	12	1	外部専門研修内容を全員参加の伝達研修により学び・共有を行っている。利用者の権利擁護に関するチェックリストを活用して、職員が自己点検を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	12	1	ケース会議等で医師、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカー等で検討し、医師から説明し、同意を得ている。		

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 東京都立東大和療育センター分園よつぎ療育園

公表日 令和7年3月28日

※保護者向けアンケートは利用者がいなかったため未実施

利用児童数 年 月 日 回収数

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。					
適切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。					
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。					
保 護 者 へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われています					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。					
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。					
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。					
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。					
満 足 度	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。					
	27	こどもは安心感をもって通所していますか。					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。					
	29	事業所の支援に満足していますか。					